



はたちの主張

※一部を抜粋して掲載しています

おおぬき みさき
大貫 未咲希 さん

私は専門学校で看護を学ぶ中、「人は多くの人に支えられて生活している」ことを強く感じるようになりました。看護現場でのチーム医療は、多職種が協力し合い一人の患者を支えています。この光景を通じて、私はこれまで多くの人に支えられていたと実感しました。今度は誰かを支える側の大人として、人と支え合いながら、そっと誰かの力になれる。そんな大人を目指して、一歩ずつ歩んでいきたいです。

くわの りょう
桑野 涼 さん

大学では、国語科を軸に教育を学んでいます。私たちは日々、多くの言葉を交わし、人からの言葉に励まされることもあれば、時に深く傷つくこともあります。特に学生時代は多感だからこそ、発したり受けたりした言葉は、良くも悪くも心に残り続けます。だからこそ、教育の立場から言葉を大切に、人の心に寄り添える子どもの育成に努めます。美浦村で過ごした温かな日々を胸に、子どもたちの学生時代を彩る教師を目指します。

とみた なおき
富田 直輝 さん

二十歳を迎え、大人になろうとする自分がいます。今までは、正解というものがありましたが、大人には様々なことに正解が与えられていません。自ら正解を考え、導きだし、人生の生きがいを見つけていく新たな道は容易ではありません。しかし、そのような状況のときこそ、20年間受けてきた数多くの支えを心に秘めながら自分を信じ、覚悟をもって賽をふり、道を切り開き歩み続けようと思います。

令和8年 美浦村はたちのつどい

希望あふれる

「はたちの」門出

令和8年1月11日、中央公民館において、令和8年美浦村はたちのつどいが行われ、今年度二十歳を迎えた161名のうち、112名男性66名、女性46名が出席しました。今年度も多くの二十歳を迎えられた方々が一堂に会し、華やかな振袖やスーツ姿で会場には希望に満ちた爽やかな笑顔が溢れていました。式典では、同級生との思い出をまとめたビデオ上映が行われ、懐かしさで喜びの聲が上がりました。また、代表3名の方による「はたちの主張」では、二十歳になった決意や将来への夢、お世話になった方々への感謝が発表され、参列した保護者をはじめ、参加者より盛大な拍手が送られました。二十歳の皆さんの新たな門出をお祝いするとともに、今後のご活躍を期待しています。

参加者代表謝辞

くろだ とうが
黒田 斗雅 さん

私たちは20年間多くの方々の支えがあったからこそ、本日無事にはたちのつどいを迎えることが出来ました。

時にはぶつかり合いながらも共に歩んできた仲間たち、我が子のようにご指導くださった先生方、いつも近くで見守ってくださった地域の方々、そしてたくさんの愛情をそそいでくれた両親に感謝の気持ちでいっぱいです。

さて、私たちは「二十歳」という大きな節目を迎え、晴れて大人の仲間入りをしますが、すでに職業に従事している者、学業に励んでいる者や、まだ将来の夢を迷っている者など、それぞれが自身の目標に向けて一歩一歩、歩み続けている最中です。

社会人としてまだまだ未熟な私たちですが、今後とも皆様方のご指導ご鞭撻をよろしくお願いいたします。